

【研究ノート】

経済学の成熟をめざして：追加すべき三要素*

岡部光明**

【概要】

本稿では、現在の主流派経済学の成果と問題点を検討するとともに、経済学を豊かな学問分野とするために今後何が必要かを論じた。

その結果、次のような主張をした。(1) 主流派経済学は、人間を利己的・合理的な存在と仮定、それによって精緻かつ体系的な理論を構築することに成功し、経済学は「社会科学の女王」という評価を獲得している。(2) しかし、そうした理論に基づく政策論は市場原理主義（効率性を過度に重視する政策、規制撤廃万能主義）に陥るといった問題が生じている。(3) それを矯正するには人間には多様な動機があること（とくに利他性、幸福の追求、相互間のきずなの3点）を考慮することが不可欠である。(4) これらを考慮すると、社会は従来のように二部門（市場・政府）モデルによってではなく三部門（市場・政府・NPO）モデルに切り替えるべきである。(5) 社会科学においては、個人の行動（幸福追求）が、より良い社会の構築に結びつくような方途の探究も視野に入れる余地があり、それを可能とする一つの興味深い実践哲学（現代的諸条件を備えている）があり、今後の展開が注目される。

キーワード： 市場原理主義、利他性、幸福 (well-being)、人的きずな、徳 (virtue ethics)、非営利組織 (NPO)、実践哲学

* 本稿は、学術研究ネット主催のシンポジウム（2018年11月25日、於中央大学）において「人間性と経済学：課題と対応の方向」として発表した内容を拡充したものである。本稿では、その内容を簡潔に提示するため、文章の形体をとらずパワーポイント画面を連ねるかたちでとりまとめた。このシンポジウムに参加する機会を与えてくださった大崎弥枝子氏（学術研究ネット理事）に感謝したい。本稿は明治学院大学・学術論文公開ウェブサイト<<https://meigaku.repo.nii.ac.jp/>>から全文ダウンロード可能である。

** <http://www.okabem.com/>



経済学の成熟をめざして： 追加すべき三要素

岡部光明

明治学院大学・慶應義塾大学 (<http://www.okabem.com/>)

2018年12月10日

本稿は、2018年11月25日に標記シンポジウムにおいて「人間性と経済学：課題と対応の方向」として発表した内容を拡充したものである。

1

目次

0. はじめに
1. 主流派経済学の「光」と「影」
2. 私の経済学観：なぜ転換したのか
3. 幅広い人間像にとっての三要素
4. 経済学を拡充するための提案
5. 結論

2

■はじめに 経済問題の多様さ

- 1 夕食はお寿司とハンバーガー—いずれにするか
- 2 なぜ非正規雇用が増えてきたのか
- 3 所得格差の拡大、貧困層の増加はなぜか
- 4 少子高齢化にどう対応するか(移民受入か?)
- 5 財政が破綻すると年金はどうなるのか
- 6 日銀はなぜ物価上昇策を採るのか
- 7 貿易での米中衝突はなぜか、日本はどうすべきか
- 8 世界各国での所得格差の拡大、なぜか
- 9 環境破壊、地球温暖化にどう対応すべきか

3

■本日は、上記の経済問題、経済政策のあり方、あるいは特定領域を対象とする経済学は（興味深いテーマではあるが）扱わない。

■経済問題と政策を考える時の手順：

1. 問題の的確な把握 *
2. 必要となる政策の考察、策定 *
3. 政策の実施、評価

■本日は*に関する「経済学のあり方」を問う。

4



経済学

人間性

以下は架橋の試み

5

1. 主流派経済学の「光」と「影」

■その「光」：経済学は社会科学の女王

- ・単純かつ明快な人間観（利己的かつ合理的に行動する主体という前提に立つ人間像）
- ・精緻かつ美しい（数学的な）理論展開、体系的
- ・経済学帝国主義(economic imperialism)そして明快な政策提言（効率性至上主義）
- ・日本経済学会は大集団（会員数 3300名）。

6

■主流派経済学が前提する個人の行動

■効用(満足度:それは消費量によって決定)を最大化。

$$U_s = \int_s^{\infty} u(c_t) \exp[-\theta(t-s)] dt \quad (1)$$

■但し一定の制約条件(下記)の下でそれを行う。

$$c_t + \frac{da_t}{dt} + na_t = w_t + r_t a_t \quad (2)$$

(注)Blanchard and Fischer (1989)

7

個人の最適化行動 (前表の意味)

最大化目標: 満足度 = 今年の満足度 + 来年の満足度 + 再来年の満足度 + ...

予算制約: 消費額と純資産増加の合計は、賃金収入と財産収入の合計額を越えることはできない。

8

■例えば、日本経済学会の機関誌



をみると ...

9

■研究論文で採用されている効用関数の例

(The Japanese Economic Review 最近号)

地域間での出生率の差異と経済取引 $U_t = A_t + \frac{1}{\mu} [C_t^\alpha m_t^{1-\alpha}]^\mu$,

経済成長と公害による生命の危険 $U = \int_0^{\infty} \exp(-\rho t) \{ \ln c_t + \sigma \ln(\bar{p} - p_t) \} dt$,

財政拡大と企業の市場参入 $U = \int_0^{\infty} u(C_t, H_t) e^{-\rho t} dt$,

労働者の社会的地位と経済成長 $\int_0^{\infty} e^{-\rho t} [\log c(t) + s \log k(t)] dt$,

10

■その「影」: 三つの問題

1. 人間は「予算制約の下で自己の効用(消費量に依存)の最大化を図る」という人間像:
 - ・利己主義、唯物主義、個人主義
2. 全ての現象を経済の論理で説明しようとする「経済学帝国主義」。その一方、重要な現象*を切り捨て。

*コミュニティ、非営利組織、人間の絆、幸福の追求。

11

(つづき)

3. 経済政策論における一面性:

- ・効率性重視(競争促進、規制撤廃)。定量的な目標(成長率)に偏重。そうでない目標(公平性、美德、文化的価値等)の軽視。

■以上3つの問題は、容易に解決できない。

理由: 経済学が「制度化」され、経済学研究者はそのなかで「合理的行動」をとる傾向が強いため。

12

■主流派経済学の政策論と広い視点に立った政策論

主流派経済学の政策論

左の問題点と広い視点に立った政策論

農業政策 <ul style="list-style-type: none"> 日本の食料品価格は国際的にみて著しく高い(米はアメリカの3倍以上)。 日本の米輸入に対する高い関税を撤廃すれば日本人の生活は豊かになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国民を消費者・生産者という視点(効率性)だけから理解、それ以外の尺度(公平, 安全, 文化等)を無視。 農地の非可逆性, 食料安全保障の視点, 水田耕作が持つ文化なども考慮に入れる必要。
企業政策 <ul style="list-style-type: none"> 企業の最終的保有者は株主であり、したがって企業の価値は株式総額によって測定できる。 株式売買はその主体や動機を問わず完全に自由化すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 従業員を単なる生産要素の一つと位置づけ、人格を備えた人間とみていない。 組織体と商品は同一視できない。企業は人間の能力開発と成長の場、社会に広く貢献する組織、という面の理解も必要。
雇用賃金政策 <ul style="list-style-type: none"> 企業では、役員であれ一般従業員であれ受取る報酬額によって勤労意欲が決定的に左右される。 役員報酬には利益連動制を、一般従業員には能力主義・成果主義賃金制を導入するとともに、いつでも転職できる労働市場にすべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 組織として団結し強さを発揮するための条件を無視。職場内格差, 非正規従業員の増加, 一体感の後退, 心の安定喪失などを招来。 組織で働く意味としては、金銭や昇進以外にも、能力開花, 達成感, 一体感, 社会貢献の感覚, などを考慮する必要。

13

人間性と経済学

社会科学の新しいパラダイムをめざして



慶応義塾大学名誉教授
阿部光明

日本評論社

- ・内容紹介: <http://www.okabem.com/book/ningensei.html>
- ・日本経済新聞における本書の書評は当資料の末尾に添付。

14

2. 私の経済学観:なぜ転換したのか

■当初は主流派経済学(市場原理主義)に傾倒:
大学時代・留学時代・日銀での20年間

■その後転換。3つの理由:

1. 米ペンシルベニア大学・プリンストン大学で「日本経済論」の講義を担当。→ **的確な理解には多面的アプローチが不可欠**
2. 慶応大学SFCの教育・研究環境。→ **学際的接近が必要かつ不可欠とする風土。**
3. 人間性に深く切り込む「**実践哲学**」との邂逅。

15



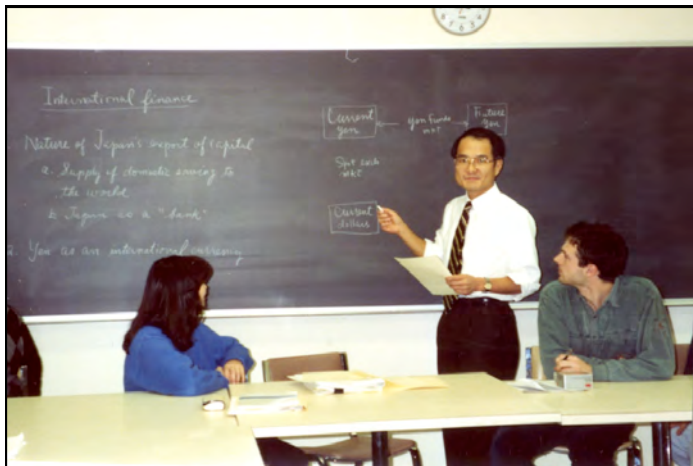
ペンシルベニア大学



経済学部「日本経済論」、大学院「日本の経済と金融市場」を担当



米国プリンストン大学

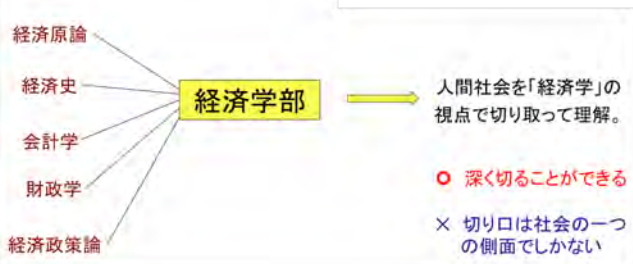


大学院「戦後日本経済発展論」を担当

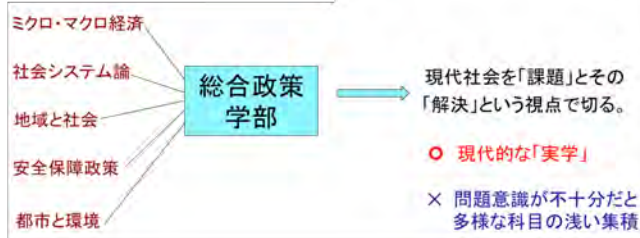
2. 慶応大学 湘南藤沢キャンパス(SFC)に 14年勤務。
その教育・研究環境。→ 学際的接近が必要かつ
不可欠とする風土。



■ 社会を理解する方法1: 従来 (=慶応三田)



■ 社会を理解する方法2: 現代的 (=SFC)



■ なぜ多分野活用的接近が必要か: その理由

A B C
1 2 B 1 A

(出典) Kahneman (2003).

事実の一つであっても、それをどのような文脈 (コンテキスト) で理解するかによって意味は異なるものになる。

3. 幅広い人間像にとっての三要素

■ 主流派経済学が前提としてきた人間像を
実体的な人間像に置き換える必要:

- (1) 利己心のほか利他主義的な動機も併存
- (2) モノの豊かさよりも「幸福」を追求する行動
- (3) 人間は原子論的な存在でなく社会的な存在 (きずなが重要)

4. 経済学を拡充するための提案

■人間につき次の三点を考慮：

- 論点1： 利他主義的な動機 Altruism
- 論点2： 「幸福」の追求 Happiness
- 論点3： 社会的存在(=徳) Community

25

■論点1：主流派経済学はこの現象を説明できるか？



- ・説明不可。
- ・ボランティア活動やNPOは「異物」として対象から排除。

26

■論点1：人間の行動動機は利己心だけか、利他心は？

哲学	功利主義	▲ 人間は利己心だけを持ち、利他心をもたない。
経済学	ミクロ経済学	▲ 人間は利己心だけを持ち、利他心をもたない。
心理学	社会心理学	△ 人間は他者の利益を究極目標とした行動をとる場合がある。
	ポジティブ心理学	△ 人間は自分の労力・時間・お金などを他人に与えることによって幸福度を高める面があるので、利他心を持つ。
人類学	文化人類学	△ 人間の社会的相互作用により生きる。利他・利己という単純な二元論では把握不可能。
生物学	進化生物学	△ 人間も生物であり自己の生存を犠牲にしても、当該集団の他の個体を生き延びさせるので利他心を持つ。
神経科学	生理学、化学、	△ 慈善寄付を行えば、脳の快感を知覚するので人間は利他心を具備。

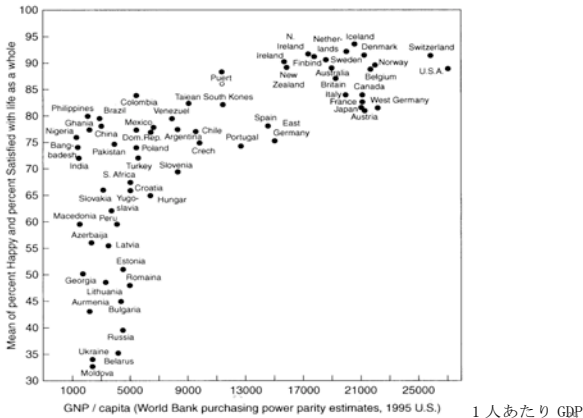
27

■論点2：幸福は本当に「消費」によって実現？

- ・消費の増大 ⇒ 幸福 ↑ ？
- ・そうではない。モノの多寡を測るGDP（経済成長率、一人あたりGDP）は経済政策のあり方を考える上で明らかに限界が露呈。
- ・一人あたりGDPが増えれば、当初は幸福度が増すが、それ以上になると幸福度は上昇しない（次図。イースタリン・パラドックス）

28

幸福ないし満足と ■論点2：一人あたりGDPと主観的幸福度 いう回答の百分比



■論点2：「幸福」の捉え方(1)：

～現代心理学によれば幸福には三種類

1. 気持良い生活 (pleasant life)
・所得水準
2. 良い生活 (good life)
・健康・安全・環境の質
3. 意義深い人生 (meaningful life; eudaimonia)
・個人相互間のつながり

(注) Seligman (2001), Frey (2008), OECD (2103)。

30

■論点2 & 3: 「幸福」の捉え方(2): アリストテレス

～エウダイモニア(eudaimonia)が幸福。
幸福は徳(virtue)によってもたらされる:

- 徳(virtue)とは、思考、人格、行為などにおいて「超過や不足がない状態(=中庸)」。
- 徳は、下記の結果をもたらすから。
 - ・**勇敢**(無謀と臆病の間) → 人の自律性 ↑
 - ・**気高さ, 節度** → 人の自信 ↑
 - ・**温和, 鷹揚, 正直, 親愛** → 人間の絆 ↑
[同情心, 利他心]

31

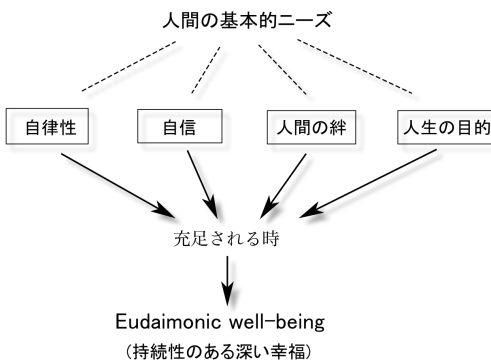
■論点2 & 3: 徳の種類、内容

対象領域	超過する状態	中間性	不足する状態
1. 大胆と怖れ	無謀	・ 勇敢	臆病
2. 快楽と苦痛	不節制	・ 節度	鈍感
3. 金銭授受	放漫	・ 鷹揚	けち
4. 名誉	虚栄	・ 気高さ	卑屈
5. 気質	怒りっぽさ	・ 温和	意気地なし
6. 対人態度	憎悪	・ 親愛	追従
7. 人との交わり	ホラ吹き	・ 正直	はぐらかし

*アリストテレス『ニコマコス倫理学』ほかに基づき著者作成。

32

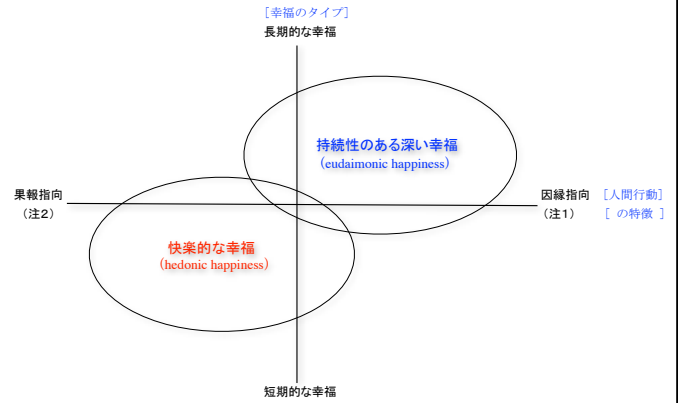
■人間の基本的ニーズの充足 → 幸福の実現



(出典) 岡部 (2017) 図表7-5。

33

■人間の行動パターンと幸福の種類



(注1) または利他的、長期的、徳倫理が濃厚、対応力が大。
(注2) または利己的、短期的、徳倫理が希薄、対応力が小。

34

4. 経済学を実り多くするための提案

- 個人が幸福を追求しているとするれば、それがさらには社会の改革・発展にもつながるような思想と方策の探究が、社会科学としては必要。
- 上記に合致する二つの方向:
 - 提案1. 社会観の切り替え** (NPOの位置づけ)
 - 提案2. 実践哲学の普及** (自己実現による幸福と社会改革)

35

提案1: 社会観の切り替え

- 二部門(市場と政府)モデルでの理解。



- 三部門(市場・政府・NPO*)モデルによる理解。

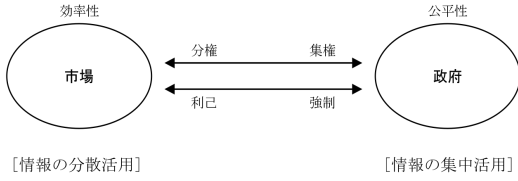
*非営利組織(Non-Profit Organization)のほか、各種コミュニティが該当。

36

■三部門モデルによる社会理解へ

[従来] 二部門モデル

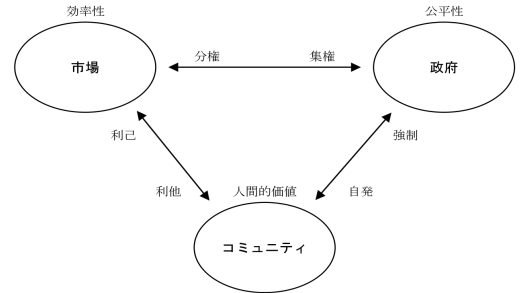
(1) 経済学における従来の視野



37

[今後] 三部門モデル

(2) 今後望まれる視野



(注) 岡部 (2017) 図表4-3。

38

■第三部門としての非営利組織(NPO)

・NPO成立の4条件 (Anheier 2005) :

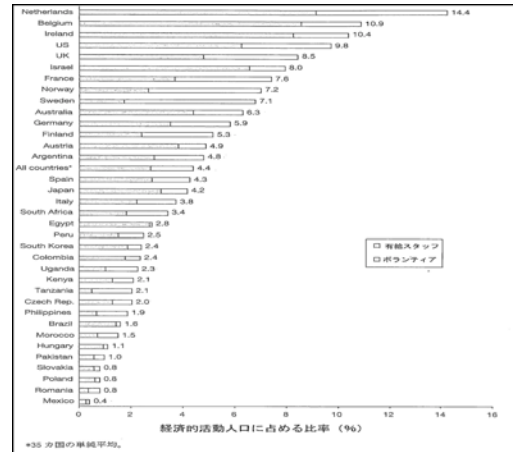
- 1) 自己統治組織。
- 2) 非営利かつ非利潤分配。
- 3) 制度的に政府から分離された組織。
- 4) 活動への参加が非強制的。

・NPOの存在理由:

- 1) 準公共財の供給主体 (経済学的な説明)。
- 2) 人間の基本的ニーズ (自律性、自信、人間の絆など幸福に関連する要素) がNPOの活動を支持。

39

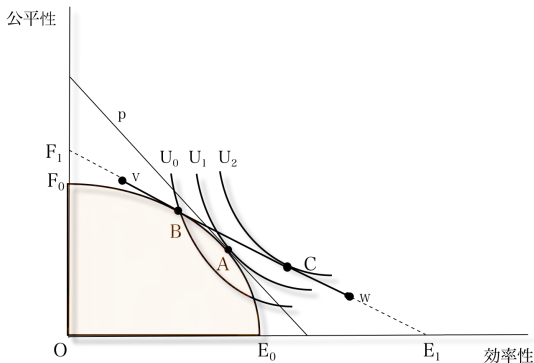
■日本のNPO部門は、比較的小規模にとどまる



40

■三部門理解が優れる理論的根拠: パレート改善*

*社会全体にとってより望ましい状況になることの証明:



(注) 岡部 (2016) 図表9。

41

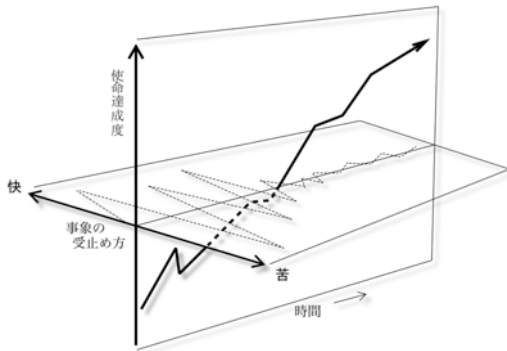
提案2: 実践哲学

■「個人の潜在能力開放」→「幸福」と「社会改革」。
高橋 (2018) が一連の著作で展開。

1. 人は定型パターン(快か・苦かの二分法)による受け止めと行動。→そこからの脱却が可能。
2. 中道ないし中庸の振る舞い → 潜在能力の開放 → 持続性のある深い幸せ。
3. 各自の「使命」の発動 → 仕事やネットワークを介して社会を変革。

42

■実践哲学を修得し実践する効果(イメージ)



(注) 岡部(2017) 図表13-9。

43

■この実践哲学の特徴

1. **先端性** (人間の**潜在能力***解放を基礎)。
*A. Sen のいう **capabilities**
2. **現代性** (個人の考え方と行動を基礎)。
3. **合理性** (原因と結果の法則を基礎)。
4. **実践性** (思想の実践手段も提供)。
5. **社会変革力** (その実証結果が存在、**別紙**)

44

5. 結論

1. 主流派経済学では、人間を利己的・合理的な存在と仮定。その結果、精緻かつ体系的な理論を構築することに成功し、経済学は「社会科学の女王」という評価を獲得。
2. しかし、それに基づく政策論は市場原理主義(効率性を過度に重視する政策、規制撤廃万能主義)に陥るとい問題が存在。また人間には多様な動機があり(利他性、幸福の追求、自己実現動機等)、また人間は社会的存在であること(きずなの重要性)が軽視されているので、今後はこれらを考慮する必要。

45

3. 経済学では従来、社会を二部門(市場・政府)モデルで理解してきたが、今後は三部門(市場・政府・NPO)モデルに切り替えるべき。そうすれば人間の行動動機を活かしつつ、社会的目標(効率性と公平性)の達成度を高めうる(それは経済理論的に説明可能)。
4. 社会科学においては、個人の行動(幸福追求)が、より良い社会の構築に結びつくような方途の探究も視野に入れる余地。これを可能とする一つの興味深い実践哲学があり、それは現代的諸条件を備えているので今後の展開が注目される。以上

46

[主要参考文献]

- 岡部光明(2017a)『人間性と経済学—社会科学の新しいパラダイムをめざして—』日本評論社 <http://www.okabem.com/book/ningensei.html>
- 岡部光明(2017b)「主流派経済学の『失敗』とその対応」、明治学院大学『国際学研究』第51号。 <http://hdl.handle.net/10723/3244>
- 岡部光明(2018)「アマルティア・センの潜在能力論とその発展的応用」明治学院大学学術論文公開ウェブサイト、2018年7月。 <http://hdl.handle.net/10723/00003411>
- サンデル、マイケル(2012)『それをお金で買いますか—市場主義の限界』早川書房。
- 高橋佳子(2018)『最高の人生のつくり方—グレートカオスの秘密』三宝出版。
- Anheier, Helmut K. (2005), *Nonprofit Organizations: Theory, Management, Policy*, London: Routledge.
- Morson, Gary Saul, and Morton Schapiro (2017), *Cents and Sensibility: What Economics Can Learn from the Humanities*, Princeton University Press.
- Sen, Amartya (1987), *On Ethics and Economics*, Basil and Blackwell.

47

別紙1 自己の変革が仕事や働きを介して周囲や社会を変革した事例（その1）

氏名	職業	経歴	個人の自己変革	左記に伴う周囲・組織・社会の変革
A氏	老舗企業の経営者。	一族企業における8代目社長を運命づけられて養育。	<ul style="list-style-type: none"> ・会社の業績が悪化すると社員のせいにし、自分は無難に生きるというのが当初の生き方。 ・自己鍛錬の結果、周囲の人たちとのつながりを強く認識し、会社は共同体であると確信するに至る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社長以下社員全員が一体化、そして新製品を続々と開発することに成功。じり貧であった業績から一転「第二の創業」を実現。
B氏	電動くるま椅子の製造と販売。	海外での自動車冒険。その後、技術を活かすボイラーシステムの会社を創業して発展。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼い頃から「際立つ生き方」を追求、会社創業後も順風満帆の人生。 ・自分の心の声に耳を傾ける鍛錬をした結果、技術を持って他人のために尽くすことこそ自分の仕事（ミッション）だと気づき、くるま椅子工房を立ち上げ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内の身障者のためにオーダーメイドのくるま椅子を製作。その後はアジアなど海外にもその活動を広げ、パキスタンでは大統領がくるま椅子の交付制度を設立することにも貢献。
C氏	小児科医。	両親や周囲からの勧めと期待のまま医科大学に進学、医師に。	<ul style="list-style-type: none"> ・知識と技術では救えずに亡くなっていく幼児や子供の姿を医療現場で体験し、敗北感とニヒリズムに陥る。 ・人間を深く見つめる鍛錬の結果、医療には「治す医療」だけでなく「癒やし支える医療」もあるはずだと確信。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の魂を見据えた医療という視点に立った医療こそ自分のライフワークであることを発見。小児の在宅医療という日本では未開拓の分野を確立、その普及に尽力。[注 a]
D氏	医師、重症心身障害児施設長。	医科大学を出て博士号を取得、在外研究の後に国立研究所で研究室長。	<ul style="list-style-type: none"> ・未来を約束された医学研究者として活躍していたが、何か心が満たされない状態。 ・重症患者に具体的に応えたいという心の底から湧いてくる願いに感電、臨床医に方向転換。その後思いがけない試練に直面したが、問題の原因は自分にあったことを発見して自己を変革。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師と患者という次元だけでなく、人間と人間、魂と魂という次元で患者の子供たちと交流する診療を実施。類似施設のモデルとして注目されている。
E氏	主婦、NPO法人引退馬協会の代表。	裕福な家庭で育ち、嫁ぎ先の家庭で平凡な主婦。	<ul style="list-style-type: none"> ・乗馬クラブを経営していた夫が脳腫瘍で病死、ほとんどのスタッフが辞職。夫の志半ばの想いを受け止めかねていた状態。 ・自己鍛錬により、自分の魂に刻まれた願い（人間と馬の絆、馬に対する想い）を引き出す一方、結果を求める側でなく良い結果をもたらすために自分が原因側に立つという中心軸を確立。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乗馬クラブを復活させることができただけでなく、引退馬がゆっくり暮らせるためにNPO法人引退馬協会を設立、海外の多くの国とも連携する中でその取り組みを開始。
F氏	元スキージャンプ選手。	学生時代から国内外のスキージャンプ競技大会で優勝。	<ul style="list-style-type: none"> ・フィンランドで練習中に大事故（頭蓋骨骨折、脳挫傷、当時は記憶喪失）、さらに後日婚約者がガン宣告をうけるという試練（その後他界）。 ・事故前から心の練磨に取り組んでいたことにより最善の道が一つあることを確信、日々努力。夫婦が支え合って試練に対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大事故から1年3ヶ月後の国体に復帰、奇跡的に優勝。2つの試練に直面した自分だからこそできることがある（それが自分のミッション）と理解、現役引退後は人々を励まし希望をもたらす講演活動に尽力。なお、試練を乗り越えた2人の物語はドキュメンタリー番組として2013年初にテレビ放映された。[注 b]
G氏	都市再開発の企画運営の責任者。	生まれ育った小樽市のビル管理会社で自社ビルを含む再開発の事実上の責任者。	<ul style="list-style-type: none"> ・再開発に関する大きな問題の連続的発生（テナントの倒産、ビルの空洞化、権利調整の難航、反対運動の発生等）に対し、いつか何とかなるという曖昧な対応。 ・試練は呼びかけであり、全てのことには可能性が含まれるとみる受け止め方ができるように自己鍛錬、そして率先して考え準備する心構えで対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手のいうことを「聞く、聴く、訊く」そして一緒に考える、という対応を徹底。この結果、小樽駅前ビル群の再開発を実現。

(注1) 具体的には、A氏は野々内達雄、B氏は斎藤省、C氏は前田浩利、D氏は許斐博史、E氏は沼田恭子、F氏は金子祐介、G氏は浅村公二、の各氏を表わしている（いずれも実在の人物）。

(注2) [注 a] C氏による小児在宅医療は、その後NHK「クローズアップ現代」（幼い命を守れ：医療と福祉の連携、2013年5月28日）でも取り上げられた。[注 b] F氏のことは、朝日新聞の「ひと」コラム（2013年1月15日）でも取り上げられた。

(注3) 高橋（2013b、2014a、2015）の記述をもとに著者が一覧表を作成。なお、注 a と注 b は著者による追記である。

(出典) 岡部（2017：420-421ページ）図表13-10。

別紙2 自己の変革が仕事や働きを介して周囲や社会を変革した事例（その2）

氏名	職業	経歴	個人の自己変革	左記に伴う周囲・組織・社会の変革
H氏	総合内科医師、地域医療連携センター長	自分第一主義と正論で周囲に対応したため軋轢が常態化、次々と病院を転籍。	<ul style="list-style-type: none"> 患者に対しては命令口調、院内関係者に対してはことある毎に口論・対立する日常。 自己鍛錬により心を変えることができ、患者の心の中にある痛みや苦しきまで受止めることが可能になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 患者ファーストの姿勢を徹底した結果、人と人、病院と病院、病院と地域をつなぐことこそ自分の使命であることを発見、現在は地域医療連携の責任者として活躍。
I氏	経営者（ホームセンター・チェーンの会長、92歳）	1980年代、まだ日本にホームセンターがなかったころそれを設立、現在は売上シェア全国1位。	<ul style="list-style-type: none"> 当初は、設立したホームセンターを大きくしたい、という発想が中心。 これまで40年近く実践哲学に接してきたことにより、その動機は社会に貢献したい、人間を目的とした経営をしたい、という願いに自らの命を使うことであることを一層自覚。 	<ul style="list-style-type: none"> プロの職人対象の専門店チェーン（生涯現役、定年なしの会社）を83歳で創業。会社の業態がユニークであるうえ、雇用に対する考え方も超高齢化社会を迎える日本にとって先駆的。
J氏	主婦	両親が再婚同士で異母兄弟のいる複雑な家庭環境のなかで成長。	<ul style="list-style-type: none"> 子供時代から消極的で引込み思案な性格。運動も苦手。2008年、列車をホームで待機中に胸の痛みで襲われ線路上に転落。 列車に轢かれたまま携帯電話で夫と娘に連絡（その姿に救急隊員が驚駭）。これは実践哲学を学んできたことにより、自分が最も大切にすべき生き方が心深くしみ込んでいたため。 	<ul style="list-style-type: none"> 命を取り留めるため、左足のヒザから下を切断することを余儀なくされ、以後は義足をつけてリハビリ。試練を泰然と受止め、自己ベストを生きる。1年後の障害者競技大会に出場、背泳ぎと自由形で金メダルを獲得。
K氏	環境科学者	環境問題がライフワーク。ここ20年はダイオキシン、廃棄物処理、ゴミ問題の研究に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災に際して、ゴミの焼却場と火力発電所を一つにするというアイデアを着想。しかし、本人は無意識のうちに固定化した見方にとらわれていたため、容易に具体化できず。 事態の可能性と制約を見極めるうえで有効な「見」から「観」へというまなざしを実践哲学者（高橋佳子氏）から示唆され、青写真を描き直して挑戦。 	<ul style="list-style-type: none"> 着想を実現するうえで市や県を動かすことができ「21世紀のごみ処理施設のモデル」といえる今治市クリーンセンターが完成、2018年3月に稼働開始。
L氏	愛知県議会議員	4歳の時、父親が交通事故で死亡。母子家庭という厳しい条件、そして就職後は男女差別に直面。	<ul style="list-style-type: none"> 選挙事務所の手伝いをしていた時、予定候補者が病気で不出馬となったため、27歳で県議会議員候補に推されて初当選。 高校2年のとき高橋佳子氏の講演会に参加、その後20年余を経て実践哲学に再び出会い、自分の人生の仕事は女性や弱者が安心して輝ける社会の実現であることを確信。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共施設での授乳室設置、県の男女共同参画推進条例の制定、県の審議会等での女性登用推進、LGBT（性的マイノリティ）の人権を守る運動の推進など、対話者・同伴者としての政治家として大きな業績。愛知県議で女性初の永年在職者として顕彰。
M氏	歯科技工士	1歳の時の病気が原因で聴覚を喪失。障害者として苦しみ、不自由な人生。	<ul style="list-style-type: none"> 両親に対して被害者意識を募らせ、ついに憎むまでになった。 手話サークルの世話をしていた女性と結婚、それによって実践哲学に出会う一方、母がいかに自分のために尽くしてくれていたかを発見。 	<ul style="list-style-type: none"> その後は歯科技工士をする一方、障害を抱えて生きてきた自分だからこそ伝えられることがあるとして、自分の心を変える道があったとする体験談の講演会にも積極的。
N氏	歌手	子供時代から飛び抜けた歌唱力。やがて中尾ミエ、伊藤ゆかりとともに三人娘を結成。NHK紅白歌合戦にも連続出場。	<ul style="list-style-type: none"> 父親は面倒ばかり持ち込んでくる一方、業界では特別待遇されるため、なぜ歌を歌うのかわからないという焦燥感。 実践哲学の学び方の一つである「プロジェクト研鑽」に参加、その結果、父やスタッフと心から通じあえる関係になり、自らの内側の力を引き出して人生を取り戻し。 	<ul style="list-style-type: none"> 父への長い介護・見取りと乳ガン体験も経て、本心から人間の喜びと悲しみを歌いたい、という歌唱に転換、聴衆を感動させている。

(注) 1. 上記各氏の具体的氏名は、H氏は池田啓浩、I氏は鏡味順一郎、J氏は大山敏恵、K氏は脇本忠明、L氏は中村友美、M氏は松橋英司、N氏は園まり、の各氏を表わしている（いずれも実在の人物）。

2. 上記M氏の小学生時代の言語習得の歩みは1958年から3年間、8回にわたってNHKラジオのドキュメンタリー番組「あるろう児とその母の記録」で紹介された。またN氏のガン体験とリハビリ、介護の歩みは2016年にNHK教育テレビ「ハートネットTV」で取り上げられた。

(出所) 高橋佳子『未来は変えられる！』(2015)、同『運命の逆転』(2016)、同『あなたがそこで生きる理由』(2017)、同『最高の人生のつくり方』(2018)の記述をもとに著者が一覧表を作成。

経済学の分析手法に変革迫る

東日本大震災から6年が過ぎ、震災復興に貢献しているNPOやボランティア団体の存在感が増している。非営利の組織や団体を分析対象から除外してきた経済学の世界でも、見直しの機運が生まれてきた。

慶応義塾大学名誉教授の岡部光明著『人間性と経済学』（日本評論社）は日銀出身の著者が学界に転じた後、20年以上、積み重ねてきた思索の集大成といえる書だ。「主流派経済学」が現在の地位を築いてきた経緯を、厳しい視点で検証している。岡部氏によると、主流派経済学が発展してきたのは「理論の精緻化・体系化」に成功したためだ。数学を活用する分析手法を生み出し、研究の方法論が確立している各種の自然科学と同様に、科学の一分野とみなされるようになった。

主流派の経済学者は、市場と政府の2部門で理論モデルを組み立てるものの、個人は利己的・合理的に行動するという発想が根底にあり、結局は市場の動きを万能とみる分析になりがちだといふ。岡部氏は2部門モデルでは経済の現実をとらえきれないため、市場と政府に、NPOに代表されるコミュニティーを加えた3部門モデルを提唱する。コミュニティーとは、「人間が社会的ネットワークを形成し、連帯感が生まれている集団」を指す。コミュニティーを分析対象に加えれば、人間の「利他性」や「非合理性」も視野に入り、人間の絆、幸福の追求といったテーマも分析の対象となると主張する。

一方、「コミュニティーは経済学にとって異物であり対立概念」（2015年の日本経済学会での岩本康志・東大教授の発言）との見方は根強く、主流派の壁は厚い。経済学者の宇沢弘文氏と、生命科学者の渡辺裕氏による40年前の対談に解説を加えて再刊行した『生命・人間・経済学』（日本経済新聞出版社）の中で、宇沢氏は新古典派と呼ばれる主流派経済学の現状に触れ、「生産関係とか環境、あるいは政治的な制度とは全く無関係に経済的な法則が働いているのだと考える『現実の経済を、正確には記述していない』メカニズムを分析していない」と厳しく批判している。40年前の発言がいささかも古びていないところに、経済学が抱える問題の根の深さが表れている。

（編集委員 前田裕之）